

第13回

JDA 春期ディベート大会

「国際連合は国際連合憲章を改正し、日本国、インド、ドイツ連邦共和国、ブラジル連邦共和国のうち一カ国以上を安全保障理事会常任理事国に加えるべきである。」

2007年3月4日

日本ディベート協会

(Japan Debate Association)

ごあいさつ

第13回 JDA 春期ディベート大会によるこそ

JDA のディベート大会は、多少なりともいつも先駆者的な役割を果たしてきたのですが、今回は論題に少し特徴があります。「日本政府」が主語でなく「国連」を主体にしてディベートをするということで、いつもとかなり違う議論を期待しています。

やはり「日本政府」を主語にして「日本人」が議論していると、ともすると国家と「国民」との利害関係が一致しているとの幻想の下で安易にディベートが進んでしまいがちな傾向があります。もちろん「国民」というのも男女の差・年齢層の差もあれば、貧富の差・地域の差もあるし、利害は一枚岩ではないです。戦争などの極限状況では大多数の国民を犠牲にしてでも国家の存続を優先しようとする指導者も過去には実際にいました。

誰の視点を基準にしてディベートをするのか、この問題はディベートをする上では本当は欠かせない論点のはずなのですが、今までは利害が誰にとっても一致しているかのようにディベートが進むことが多かったといえましょう。しかし本当は誰かにとってのメリットは、他の誰かにとってはデメリットであることもままあるのです。

このような利害の不一致は、国際社会を問題にするとさらに深まるでしょう。そもそも「国際社会」共通の利害はあり得るのか。国連という組織自体の利害は、国際社会の利害と一致するのか。そうした利害と国家としての日本の、あるいは日本社会に住む住人の利害は一致するのか。現代の利害は将来の世代の利害と一致するのか。などなど。ここで「国連」をネタに考えること自体も色々と考えさせられ大変魅力的ですが、判断主体の問題を取り入れるきっかけになればさらに議論も面白くなるでしょう。この後、「日本政府が、～すべき」というおなじみの論題形式でディベートをする際に参考になることを、色々と考えてくれることでしょう。「利害が一致しないとき、どのように判断をすべきなのか」これをディベートでトレーニングすることは、重要な(国際)社会的貢献の一つであるといっても過言ではないでしょう(きっと)。

ところで JDA も多少かんでいっているのですが、昨年末に全国高校生英語ディベート大会が岐阜県で産声を上げました。一回なのに各地から生徒・先生方が集まりえらい熱気でしたよ。ジャッジを意識した英語で議論をしているすがすがしい高校生たちを観ていると、そろそろ大人のための JDA 英語ディベート大会(伝わらない英語で質の低い疑似エビデンスを読みあう「ディベ大会」でない大人のための大会)も欲しいなと思うようにもなりました。実現の障壁はやはりマンパワーでしょうか。賛同者(参加希望者、大会マネジメント希望者)は是非一声あげてください。なかば以上本気です!

矢野善郎

矢野 善郎：日本ディベート協会会長

フォーマット

肯定側第一立論	6分
否定側質疑	3分
否定側第一立論	6分
肯定側質疑	3分
肯定側第二立論	6分
否定側質疑	3分
否定側第二立論	6分
肯定側質疑	3分
否定側第一反駁	4分
肯定側第一反駁	4分
否定側第二反駁	4分
肯定側第二反駁	4分
準備時間	各チーム8分

スケジュール

08:50～	開会式
09:05～	予選第一試合
10:45～	予選第二試合
	(予選第二試合終了後、昼食)
13:00～	予選第三試合
14:50～	予選結果発表
15:00～	決勝戦
16:35～	決勝戦コメント・表彰～閉会式
17:15	終了

※スケジュールは、当日の進行状況により、多少前後する可能性がありますのでご了承ください。

出場者・見学者の皆様へ(必ずお読みください)

- ・ センター内は全面禁煙です。喫煙所以外での喫煙は固く禁止します。
- ・ センター内は飲食禁止です。お食事は食堂(カフェテリアふじ、喫茶フレンズ等)をご利用ください。
- ・ 携帯電話、PHS等は、試合中呼び出し音が鳴らないよう設定してください。
- ・ スピーチ中の試合会場への入場・退出はご遠慮ください。見学は試合の妨げにならないよう、お静かに願います。ヤジは禁止です。
- ・ 試合の録音・録画については基本的に自由ですが、以下の三点をお守りください。1. 出場者の許可を得る(出場者の方はなるべくご協力ください)。2. 授業・講義・クラブ活動での使用に限る。3. 他の方にダビングしない。